

伊能図探究

NO 3

平成7年5月1日
伊能日本図探究会

—現存する伊能図を尋ねて—

伊能図の撮影

小山 弥雄



大判の古地図を字が読めるようにフィルムに収めるのは仲々の大仕事である。渡辺氏から話しがあったとき、カメラは昔から好きで撮り歩いてたし、いささか自信もあったので2つ返事でOKした。このために、30万円余を投じてブローニー（6×7）版のカメラを新調して撮りはじめた。ロールフィルムを使うカメラでは最も大きく、画面の広さは35mmカメラの4.88倍ある。読めるかどうかの境界では絶対に物を云う筈である。プロがよく使う4吋×5吋のシートフィルムと比較すると1/3の面積であるが、4"×5"のカメラと比較すると操作性は抜群であるし、フィルムのコストも安い。決定的に有利と考えた。

ところが現実の伊能図撮影はどうだろう。折り畳まれている図は折り目が出張って露光が変わる。巻いてあるものはカールがあって平らにならない。床面に置いて密着させれば最高だが、その場合は上から撮影しなければならない。設備のない処では到底無理である。次善の策として、壁に地図を垂らす方法で撮っているが、地図面を垂直に保つことが困難である。レンズを絞って焦点深度を稼いでみると露出がおかしくなる。フラッシュの光が届かない。ライトの光源と地図の色の組合せがよくない。外部からの散乱光のために色がついて了う等々。阻害要因は限りなく多い。

失敗したときは辞を低くして撮り直しをお願いする他はない。博物館等でフィルムをお持ちの場合は、お借りできるので一番よろしい。博物館のフィルムでも、可成りの良し悪しがある。プロでもこの位ならば、アマチュアでこの程度撮ればまずまずだと、安心することもある。

最近では、段々上手になって、多数のカットを撮るうちに良いものが出てきている。それやこれやで伊能図の原板は増えつつある。

（会友 元鴨川・晴海・小平電話局長 鴨川在住）

目次

静嘉堂文庫蔵 カナ書きの伊能特別小図について	2
〈参考〉国会図書館蔵 伊能特別小図	3
静嘉堂文庫蔵カナ書き伊能特別小図部分図（関東）	4
静嘉堂文庫蔵カナ書き伊能特別小図部分図（東北）	5
国会図書館古典籍室蔵カナ書き伊能特別小図	6
伊能特別小図一覧	7
事務局便り（カナ書き特別小図副本の発見 伊能図についての情報を求む 英国グリニッチ国立海事博物館蔵小図）	8
編集後記	8

静嘉堂文庫蔵 カナ書きの伊能特別小図について

渡辺 一郎

現在、英国グリニッチの国立海事博物館（National Maritime Museum）にある最終版伊能小図（文政4年〈1821〉上呈）の複製を企画しているが、その過程で日本における最終版伊能小図の行方について、あらためて追いかけてみた。

調査結果は、「月刊古地図研究300号 記念論文集」に収めているが、結論的に発見できなかった。大谷亮吉氏の「伊能忠敬」に出てくる浜松の内田氏所蔵の図は、戦前に旧海軍兵学校に寄附されたが、敗戦の混乱のなかで滅失したと判断せざるを得ない状況にある。

一方、明治の洋学史家大槻如電が所蔵していたという伊能小図を尋ねて静嘉堂文庫を調査したところ、伊能小図ではなくてカナ書きの伊能特別小図が見つかった。紹介されていない珍しい地図なので以下に報告する。

静嘉堂文庫のカナ書きの伊能特別小図は「高橋景保編 大日本輿地図稿本」と題する。整理番号97-23概折本で1舗。明治の洋学者大槻如電の旧蔵で、大槻文庫として所蔵されている。

地図自体には題名はなく、右肩に大日本輿地図、1里当り1分5厘、1度当り4寸2分3厘とあるだけである。サイズは縦106cm横186cmで、緯度1度の間隔を実測すると、約12.5cmから12.7cmで注記と縮尺がほぼ一致する。

カナ書きの伊能特別小図としては、国会図書館古典籍室の、シーボルトから取上げたといわれる図が有名である。静嘉堂特別小図は国名・郡名以外の地名を總てカナで書き、国名と郡名にはあまり上手でない字で、後からカナを振っている。凡例・付表などはないが、描図は大変丁寧でカナ文字等は、伊能図のなかでも達筆の部類に属する。朱の測線に沿って明確に針穴が認められるから、伊能グループによる、いわゆる突手本であり、伊能図副本と考えることができるものである。

主要な山岳・河川と、国界のやや太い黒線（郡界はない）、海岸と、カナ書きの地名のみが描かれた、白地の目立つ日本全図で、九州の地形が正常に描かれているので、文政4年以降作成の特別小図である。

中線は京都。彩色は水色（河川・海岸）、緑（著名な山岳）、黒（海岸線、国界）、朱の測線である。縮尺は小図の1/2で1/864,000である。

伊能特別小図は、日本全体を概観するのに便利なので多数複製され、特に沿海地図（文化元年上呈、日本東半部図）とセットになっているものが多いが、何れも地名は漢字である。静嘉堂文庫の特別小図と、国会図書館のシーボルト図のみがカナ書きであり、この間に、何等かの関係が推測されるので、対比しつつ仮説を述べてみたい。

国会図は3枚であり、静嘉堂図は1枚である。但し、国会図のうち1枚は蝦夷地である。静嘉堂図は蝦夷を含まない。静嘉堂図の中央には1枚図に不要な接合用のコンパスローゼが2個描かれている。この位置は国会図と合致はしないが、本州部分のシーボルト図2枚を1枚に合せて作られた控えと考えたと説明がつく。静嘉堂図は突手本である。高橋景保がシーボルトに渡すカナ書き特別小図を作った際、控をとった可能性は充分考えられる。2枚を1枚に写してもおかしくはない。

帝国学士院版の「伊能忠敬（大谷亮吉著、大正六年、岩波書店刊）」で、大谷氏は、大槻如電が、松平伊勢守が謄写せしめた伊能小図を蔵していたという。しかしながら、大槻の蔵書を継承する静嘉堂文庫には、大谷氏の言及していない特別小図の突手本を蔵するが、伊能小図は見当たらない。

松平伊勢守は何人かいるが、禁裏付、京都（西）町奉行、小普請奉行などを歴任した、松平定朝（文政10.8.9.～天保6.5.20.）が時代的にも、職掌柄からも関係が最も近そうである。

大谷氏の記述が、伊能小図と伊能特別小図の間違いであったとしても、松平伊勢守の役割および景保との関係について疑問が残る。

伝来は不明でも、静嘉堂特別小図は立派な伊能図副本であり、シーボルト図とも関係がありそうである。参考のため、10数年前になるが、国会図書館の古典籍室のシーボルト図を調査した際のレポートを付記する。

国会図書館古典籍室のカナ書き特別小図と 静嘉堂文庫蔵カナ書き特別小図の対比（添付図参照）

両図に書込まれている地名の密度対比のため、川崎から静岡（府中）までの東海道を沿って地名を比較してみた。

（国会特別小図）	（静嘉堂特別小図）	（国会特別小図）	（静嘉堂特別小図）
カワサキ	カワサキ	ヤマナカ	――
ツルミ	――	〇〇〇〇（不詳）	――
カナカワ	カナカワ	ミシマ	――
ホトカヤ	ホトカヤ	ヌマヅ	ヌマヅ
トツカ	トツカ	カノカワ	――
フジサワ	フジサワ	スワ	――
――	ツジドウ	ハラ	ハラ
ヒラツカ	ヒラツカ	カシワハラ	――
ヲライソ	ヲライソ	タコ	――
コホフツ	――	フジカワ	フジカワ
サカワ	サカハ	――	ユヒ
ヲダワラ	ヲダワラ	ヲキツ	ヲキツ
ユモト	――	エシリ	エシリ
ハタ	――	ヲカヨシタ	――
ハコ子	ハコ子	フチウ	フチウ

国会図の脱落は2ヶ所、静嘉堂文庫図は12ヶ所であった。双方共、丁寧に描かれているが、完成度においては可成りの差がみられる。

一方、国名、郡名については、国会図はカナは振られていないが、静嘉堂図は後からと思われるカナが振ってある。カナがあることは、外国人向けと考えるのが常識的であろう。静嘉堂図の位置づけをどう考えるべきであろうか。

〈参考〉 国会図書館蔵 伊能特別小図 昌平校旧蔵 調査1978. 10

地 図 名 日本図 伊能忠敬作成（昌平校旧蔵） 保管 貴重書室（現在は古典籍室）

請求番号 貴重書 別13-3-66

特 徴 伊能特小図で3舗よりなる。地名がカナ書きである。高橋景保が海外の資料と交換にシーボルトに与え、間宮林蔵の通報により、取り戻したといわれる図である。

秋岡博士によると、明治8年文部省より上野図書館に移管、第2次大戦後、国会図書館に置かれたという。題は蝦夷図とあるのを朱で日本図と訂正してある。

明治8年文部省交付の印、および編修地誌備用典籍の印のほかに、2個の印があるが判読不能。

構 成 第1図 本州西部 縦130cm×横115cm

経線は京都を中度とする。本図は東3度より西7度までの範囲を含み、近江の大部分と越前の1部、尾張の1部から西を対象とする。経緯線はやや太めの黒線（太さは統一）。国境の太めの黒線がめだつ。緯度1°の間隔は12.5～12.7cmで一定。描図は極めて丁寧で美しい。紙質はやや厚手、虫食い少なく、保存良好。測線は朱、地名はカタカナ、郡名は黄色の楕円内に漢字、国名は朱の枠内に記入する。沿海は淡青とし、若干の山景をそえる。方位線はなく、河川は記入。朝鮮半島の山々6峰の遠望を描く。緯度30°～39°の範囲をカバーする。

第2図 本州東部 縦130cm×横115cm

状態は第1図同様に良好で、虫食い少なく保存が良い。緯度32°～34°、経度東8°～西2°の範囲を描く。経緯線は直交しない。北海道の松前まで描く。

第3図 北海道・樺太 縦130cm×横115cm

樺太全島を描く。また、対岸の黒竜江の河口付近の地名、島名も記入する。千島についてはウルップまでを含む。地名の詳しさは、官板実測日本図に及ばないが、とにかく美しく見事である。

所 感 描図は極めて丁寧であるが、図名、凡例がなく、距離の表等はない。枠、製作者名、期日もないこと、などから写しであることは確かであろう。図書館では伝来は不明といっている。シーボルトから取り戻したことの確認はどのようにされたのであろうか。秋岡博士の計測とサイズが少し合わないが、大きな違いではない。



図3・1 静嘉堂文庫蔵カナ書き伊能特別小図部分図（関東）

国境の黒線と散発的に描き込まれている山岳を除くと白地が目立つ。河川とその名称は思いつくままに書かれた様な感じで、大小には関係がない。



図1 国会図書館古典籍室蔵 伊能力ナ書き特別小図 部分



図2 静嘉堂文庫蔵 カナ書き伊能特別小図



図3・2 静嘉堂文庫蔵カナ書き伊能特別小図部分図（東北）

右肩に題名がある。全体に書き込みが少く、街道沿いの地名、河川名をカナで書く。国名、郡名は漢字にカナを後から振っている。

図3. 3 国会図書館古典籍室蔵 カナ書き伊能特別小図

有名な図なので、美しいボジを使わせて頂くことができた。カラーの大版とすればよいが、ここでは全体を把握するため本州東部をモノクロで掲げた。部分対比をカラー版でおこなっている。



■伊能特別小図一覧

伊能小図の1/2の縮尺、すなわち1:864,000の伊能図は特別小図といわれている。この図は大別すると3種類にわけられる。

(1) 本稿に述べたカナ書きの特別小図

所 蔵 者	概 況
国会図書館 (古典籍室)	高橋景保がシーボルトに与へ、帰国の際に発覚して取戻されたといわれる図。地名等がカナ書きの3舗。本州・四国・九州を2舗に描き、北海道を1舗とする。 達筆。美麗。
日本学士院 (図書室)	国会図書館古典籍室のカナ書き特別小図を大正2年に複写(当時は帝国図書館蔵)したもの。 丁寧な製作。この図を複写した意図を計りかねるが、大谷亮吉氏の「伊能忠敬」関連資料。特小図の代表作、又は小図の代りに選んだものであろうか。
静嘉堂文庫	図名は大日本輿地図稿本。大槻文庫蔵本。全1舗に本州・四国・九州を描く。北海道を含まない。カナ書き。特小図と同縮尺。突手本。達筆。丁寧。図名を右肩に書くが凡例、識語はない。

(2) 日本輿地図藁

伊能測量隊の作業途上において、幕府の要請で文化5年までの測定データにもとづき、既存の諸地図を参考として、暫定的に作成された日本全図。文化6年の上呈。縮尺は小図の1/2。実測の海岸線は朱線。未測の海岸線は黒線。子午線は京都を0度とする。九州の地形が細長くなっている。

本図で存在が確認されているのは、神戸市立博物館の図のみであるが、文献に現われている旧蔵者も列挙した。

所 蔵 者	概 況
神戸市立博物館	石井柏亭氏旧蔵。南波松太郎コレクションとして神戸市立博へ入った。1舗構成。美麗。針穴のない写本であるが、高橋景保の序文もあり、完全な形の復本。 ¹⁾
箕輪由兵衛氏	佐原の人。大谷博士によると、伊能家の副本が転々として、この人の手に渡ったという。該図の高橋景保の序文は忠敬の自筆と。 ²⁾ 戦前の話であり、現況は不明。
小倉常三郎氏	大谷博士によると、本図の断片を所蔵していたという。 ³⁾ 現況不明。

1)「伊能図に関する若干の考察」 赤木康司 神戸市立博物館研究紀要 第10号 93.9.

2)「伊能忠敬」 大谷亮吉 岩波書店 大正6

(3) 伊能特別小図補訂版

文化6年に提出された日本輿地図藁は、測量が完了後文政7年に改訂され、九州の地形等が修正された。¹⁾

本図は日本東半部の図(略称沿海地図)とセットで各地に保存されている。文献より抽出し列挙する。

所 蔵 者	概 況
宮内庁書陵部	日本国地理測量之図1舗。文化6年の特別小図より地形正確。文化元年の沿海地図小図とセットで保存されている。 ¹⁾
内閣文庫	題名は皇国全図。1舗。文化元年の沿海地図とセット。 ¹⁾
津田信次郎氏	題名は日本国地理測量之図。図のサイズ370×125cm。沿海地図とセット。津田氏は播磨国高砂の旧家で江戸末期に両替商。入手経路は不明。 ¹⁾
太鼓谷稲成神社(津和野市)	日本国地理測量之図。文化元年の沿海地図小図とセット。堀田仁助作。大型図。
竜瀬良明氏	題名は日本国地理測量之図。福岡県飯塚市の木月矢三郎氏の旧蔵。鮎沢信太郎氏(横浜市大)を経て竜瀬氏へ。保柳博士の厳密な考証がある。(伊能特小図の最終形と説く) 識語はない。 ²⁾
武田重治氏	大谷博士によると、謄写は巧でない図を所蔵されたという。経緯線、方位線なく、度数のみ記入。余白に主要都市の経緯度の表があると。 ³⁾ 武田氏は津田信次郎氏と遠縁。現在は鎌倉市に居住。 ⁴⁾

1)「日本古地図集成(日本地図作成史 第6編日本地図作成史上の若干の事項)」秋岡武次郎編著 鹿島出版会 昭46

2)「伊能忠敬の科学的業績」 保柳睦美 古今書院 昭49 170頁

3)「伊能忠敬」 大谷亮吉 岩波書店 大正6 612頁

4)「伊能忠敬作成の日本諸地図の現存するものの若干」 秋岡武次郎 地学雑誌 76巻6号

(4) 神戸市立博物館蔵 日本国地理測量之図

上記のほか、描図形式がほぼ同様で、縮尺の違う図を神戸市立博物館が所蔵する。縮尺1:432,000。小図に同じで、425×390cmの超大形地図。方位線なく、地図の記入項目は小図と比較すると可成り疎である。周囲に里程表、島嶼一覧、河川一覧などの諸表多数を配列する。序文は他の特小図に見られる樂水堂主人でなく、学古堂主人。1986年の入手。沿海地図とセットではない。

事務局便り

カナ書き特別小図副本の発見

グリニッチ小図の複製の企画に関連して、日本の伊能小図の行方を再度追いかけているなかで、静嘉堂文庫の大槻文庫をチェックしているうちに、カナ書き特別小図を見出した。

カナ書き特別小図は、国会図書館の古典籍室のものばかりと思っていたので少し驚きであった。子細に見ると針穴は鮮明だし、文字は達筆で、なかなかのものである。国会・古典籍室の特小図と併せてレポートした。

伊能図についての情報を求む

津和野の太鼓谷稲成神社から所蔵図の情報を頂きました。ありがとうございました。本誌は伊能忠敬プロジェクトチームが全国測量をおこなって作成した日本地図、いわゆる伊能図の画像による紹介と情報交流を目的としている。

伊能図に関する情報は何でもお寄せください。所蔵機関、所蔵者の方で、写真などお持ちの場合は是非御提供下さい。連絡をお待ちします。

英国グリニッチ国立海事博物館蔵 文政4年伊能小図の複製について

全体構想が固まり着々と準備が進みつつある。本会が指導をうけている日本古地図学会の会報の古地図研究300号記念として、近々、発行の予定である。

小図は伊能図を知るために最も手頃な規模であるが、残念ながら日本には3枚揃は存在しない。今回、所蔵者の英国の国立海事博物館（National Maritime Museum）の承認をうけて、非営利出版物として刊行する。御希望の向きには実費で頒布する。

編集後記

DTPと勢いこんでみたが、カラープリンタの速度が遅く、部数をまとめるのに時間がかかって仕方がない。載せたい写真はたくさんあるので、本文にモノクロで何故かを入れてみた。モノクロでは実物のイメージを伝えることは出来ないが、文章で書くよりは格段の差があろう。作る方も楽である。

カラープリンタの展示は注意して見ているが、次第によいものが出てきている。DTPの普及につれて、本誌の内容はどんどん変えてゆきたい。

集めた地図の写真は光磁気ディスクに大体入れてある。光ディスクによる伊能図集になれば大変よいと思っているが、現段階ではフィルムから光ディスクに入れるのに色々お金がかかっている。

フィルムを読み込むスキャナーのハンディなものは画質が悪く、精度のよいものは超高価である。もっとも、超高価な機械を扱う人件費が極超高価で、入力代とか、画像の加工費を高くしている。

画像の入出力が安い機械で出来るようになり、誰でも自分でやるようになれば自然にコストが下がり普及するだろう。マルチメディア時代とはそういうものだと思う。

伊能図探究 No. 3

発行 平成7年5月1日

編集発行 伊能日本図探究会 代表 渡辺 一郎

撮影協力 小山 弥雄

所在地 東京都文京区本郷1-27-8-A1007

TEL&FAX 03-3818-0792

(昼間 TEL 03-5261-1801 FAX 03-5261-1803)